

「支部交流会 in 勿来」報告書

2024 年 12 月 15 日

令和 6 年度の校友会福島支部交流会が、11 月 9 日(土)・10 日(日) いわき市勿来町で開催されました。主な内容は、震災遺構「被災防潮堤」と 2031 年に開封するタイムカプセル「きみと」の見学、勿来観光そして、現役学生による「学生プロジェクト」との交流活動でした。

過去の交流会事業としては、「震災復興勉強会 (2019.1 小名浜)」と「双葉郡 視察旅行 (2019.11 大熊町・富岡町・楡葉町)」を実施しております。3 回目は、現地の方々に寄り添い活動をサポートしている後輩プロジェクトとの交流と震災遺構等の見学、周辺観光を行いました。

以下、交流会内容と懇談会内容をお伝えします。写真集も合わせてご覧ください。

【支部交流会内容】

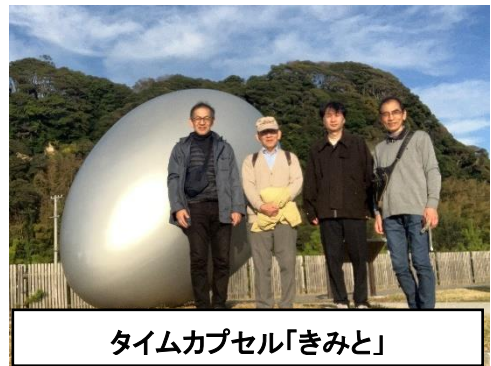
- ・ 勿来の関跡周辺施設見学
(源義家銅像、文学歴史館、吹風殿など)
- ・ ビーチクリーン体験参加
- ・ 岩間防災緑地(タイムカプセル「きみと」,被災防潮堤モニュメント)の見学
- ・ 学生、NPO 法人と福島支部会員との懇談会
- ・ 親子巣箱作成見学



【学生、NPO 法人と福島支部会員の懇談会内容】

1. 参加者自己紹介
2. 福島支部紹介

設立年、組織概要、活動方針、令和 6 年度支部事業(支部総会・全国総会参加・地域交流会・支部だより・勧誘活動)などの説明を資料とプロジェクターを使用してお話ししました。



3. 学生プロジェクト紹介

2 年生の副代表 富岡拓海様がプロジェクターと配布資料を用いて説明しました。概要を記載します。

- (1) これまでのあゆみ

東日本大震災から 10 年が経ったことを機に団体の目的を「復興」から「まちの活性化」へ方向転換しました。(プロジェクト名称は「笑顔のまち なこそプロジェクト」に変更) 多種多様な学部・学科の学生が集まり、総勢約 70 名が主体的に活動を行っています。



- (2) 団体の活動目的と意義

地域住民の繋がりや創出といわき市の活性化を目的として、関東の学生という客観的立場で、地域交流を促進する方法を提案しました。地元の方々と共に活動することにより、地方の課題に意識を向ける社会の流れをつくり出すことが重要と考えました。

(3) 活動状況と予定

【 団体としての活動 】

- ・ こもれびの森制作：子供たちと一緒に約 6 カ月間で巣箱づくりと設置
- ・ ピーチクリーン；地域住民の方との海ごみ清掃
- ・ 子供トレイル：自然の中を歩きながら学びや発見を体験できるイベント

【 班としての活動 】

- ・ 植田班：いわき市植田町の植田商店街における活性化活動
- ・ 農業班：田畑を生かした地域活性化活動
- ・ 環境班：環境意識向上のための活動。今年度はマイクロプラスチック削減への工学的な取り組みを開始
- ・ 防災班：勿来地区に留まらない防災意識の向上活動
- ・ 集落復興支援事業班；いわき市田人町における地域活性化活動



（農業班の例）

最終目標は勿来地区の農業人口を増やすことであるが、いわき市の農林業経営体数は減少しており、耕作放棄地は地域に悪影響をもたらす。

そこで、子供たちに農業関連の教育を行うことで農業が就職選択の有力な選択肢となることを目指している。昨年度は、調査を実施し農家さんとの関係性を深めた。今年度は、小学生を対象に食育に関連したイベントを開催したり、農家さんのお正月祭りのお手伝いをする予定である。

4. NPO 理事 舘敬理事長のお話し

舘様には、NPO と学生プロジェクトの 13 年間の関わりについてお話し頂きました。

東日本大震災に於いて、海に面している勿来町は、他の地域と同様に大きな被害を受けました。

復興に際しては、勿来町と芝浦工業大学の繋がりができるきっかけになった中村仁様がコンサルタントとして大きな役割を果たして頂きました。

2013 年には、岩間地区に防災緑地をつくる案を国が打ち出したことで、NPO が防災緑地利活用検討委員会を発足し、県職員、市職員、藝大、中村仁さんに声掛けしました。この時、中村様は芝浦工業大学の教授になっておられました。

防災緑地には 2018 年 9 月にタイムカプセルが設置されました。中には、被災された方々への震災当時に関する取材の記録、震災 5 か月間の新聞、勿来の子供たち自身が描いた自画像などがはいっています。その他、当時の被災者が集まってつくっていた「吊るし雛」などもあります。

防災緑地にあるモニュメント「きみと」の制作には東京藝大の先生が 3 人かかわっています。

この時は、芝工大教授になられていた中村仁様はゼミに参加している学生を連れてきてくれました。筑波大学と芝浦工業大学の学生は、被災された方々への取材や、住む家を流された被災者と地元住民の方々の触れ合いを企画することもしてくれました。

被災 10 年目の 2021 年 3 月には、関わった学生や関係者に集まって頂き、イベントを開催しました。震災から 10 年が経つと、その時の生活が日常になり、もはや復旧、復興ではなくなります。

そこで、NPO 活動も「復興」から「まちの活性化」へ方向転換しました。現在は、学生プロジェク



トの方々と共に、町を活性化させる方策の検討と実施に活動しております。

被災20年目の2031年3月11日には、タイムカプセルを開封します。この時は、関わった人に集まって頂き、亡くなった方の冥福を祈り、当時を偲ぶ会を開催したいと考えています。

当時、災害を証言してくれた方が亡くなっている場合は、その方の子供さんなど関係者が、タイムカプセル開封の日に来ることになっています。

5. 終わりに

今回の支部交流会では、勿来地区の歴史散策に加え、現役学生による活動見学と懇談会という現役学生との交流もありました。

今回の報告書については、学生プロジェクトとの関わりがメインになってしまいましたが、「被災防潮堤」とタイムカプセル「きみと」の見学や勿来地区歴史散策もありましたので、報告書(写真集)も合わせてご覧ください。

本来であれば、会員皆さんとの交流が目的ですので、多くの皆様に参加して頂きたいところです。会員の皆様には、意見や感想を頂ければ幸いです。また、次回の交流会に参加して頂ければと思っています。

大学を卒業してから、職場以外では若い方々との交流が日常ではあまりなく、不安もありましたが、ビーチクリーンや懇談会で話し合っていると自然と打ち解けた雰囲気になりました。

現役学生にとっても卒業生と話をすることは初めての方がほとんどのようでした。感想を聞いてみると、大変好感をもってくれたようで、お互いに良い感触で終わったと思います。

懇談会終了後は、会社や業界の話、就職活動の話などで盛り上がりました。先輩として、これから船出する若者にエールを送りたいと思います。

このようなお付き合いを通して、在学中から校友会の存在を知ってもらい、当支部を含め各地の校友会支部を訪ねて欲しいと思います。

年々会員が減っていく中で、若い方々との交流を持つことは、未来への希望につながります。いつの日か、県内に住むOBOGの皆様といつかお会いできる日を楽しみにしております。



懇談会終了後

お忙しい中参加して頂きました会員の皆様、学生プロジェクトの皆様、NPO様には大変お世話になりました。有難うございました。